

概要

○旧津久井郡区域ではJA大型直売所の端境期における**地域外入荷の増加**、旧相模原市区域では**イチゴ観光農園の需要に満たない生産量**、果樹では相模原市内全体で**ブドウ及びブルーベリー生産者の高齢化**が課題。

○そこで、大型直売所出荷者組合には直売品目の**新作型・新品目の導入**、いちご部会には**施設内環境データを活用した栽培技術の導入**、ブドウ部会やブルーベリー部会には**省力化技術の導入**を支援。

○JA大型直売所では導入された新作型・新品目の**販売品目として定着し**、イチゴ観光農園では環境データの可視化により**栽培方法を改善する経営体が増え**、ブドウ、ブルーベリーの生産者では**省力化が進み**、地域農業の活性化につながっている。

具体的な成果

1. 野菜の新作型及び新品目の導入支援

新作型8作型、新品目2品目について、JA大型直売所「あぐりんずつくい」の出荷者組合（約100経営体）を中心に情報提供を行い、新たに販売品目として加温トマト、アーサイの**2作型・品目が定着した**。

導入を支援した作型・品目

- 新作型：ハウススイートコーン、春どりダイコン、抑制エダマメ、ハウスコカブ、半促成ナス、夏まきホウレンソウ、夏まきリーフレタス、**加温トマト※**
- 新品目：促成イチゴ、**アーサイ※**

※定着した作型・品目（R6年度に計約200万円の売上）

2. スマート農業技術を活用したイチゴの生産拡大支援

- ・環境データの可視化により、R6年度より1経営体が循環扇を追加で設置し、**ハウス内の温度ムラを軽減**することができた。
- ・R5～6年度に、**2経営体が新たに環境データの可視化に取り組み**、今後、環境の改善に取り組む予定である。



3. ブドウ、ブルーベリー栽培における省力化技術の導入支援

- ・ブドウ部会では、講習会等を実施した結果、**摘蕾櫛を1経営体、花房整形器を1経営体、反射マルチを2経営体が新たに導入した**。
- ・ブルーベリー部会では、普及指導員の体験に基づき啓発した結果、電動バサミやノコギリなどの**機械剪定技術を3経営体が新たに導入した**。



普及指導員の活動

令和4年

- 抑制エダマメ、半促成ナスについて技術指導を実施
- イチゴ生産者ほ場にて生育調査、環境データの解析を実施
- ブドウ反射マルチについて、**先進地視察**や費用対効果の情報提供を実施

令和5年

- アーサイについて、講習会や巡回等で導入を働きかけ
- イチゴ生産者の昨年度のデータ解析結果を踏まえて、**改善点の提案**
- ブドウの摘蕾櫛については講習会で導入を働きかけ

令和6年

- 過年度の検討品目について、**栽培の手引きを作成し**、講習会において情報提供
- イチゴ生産者に提案した改善点の実施（循環扇の設置）
- ブルーベリーの電動バサミについては**講習会で実演し**、導入を働きかけ

普及指導員だからできたこと

- ・新作型・新品目の導入にあたり、JAと連携し、**可能性のある生産者を選定して働きかける**ことができた。
- ・専門知識を生かし、**環境データと生育データの関係を考え**、栽培の改善点を確認した。
- ・ブドウについて、優良園を視察し、**視察先と意見交換**することで、生産者は技術導入に積極的となった。

神奈川県

直売・観光用野菜及び地域特産果樹の安定生産技術の 導入支援による地域農業の活性化

活動期間：令和4年～継続中

1. 取組の背景

旧津久井郡の区域は、JA神奈川つくいの大型直売所「あぐりんずつくい」に出荷する経営体が多いが、野菜は特定の品目に出荷が偏り、端境期には地域外からの入荷が増えている。よって、新たな作型や品目の導入による安定的な生産出荷が課題となっている。

また、旧相模原市の区域は、都市近郊の利点を生かしたイチゴ観光園の需要が高いが、生産量が不足している。よって、スマート農業技術を活用して需要に見合った生産量を確保することが課題となっている。

また、果樹栽培は高齢化等により減少の一途を辿っているが、一部には後継者や定年帰農者、新規参加者が出てきていることから、ブドウ及びブルーベリーを対象に、基礎的な栽培技術を含めて省力化技術の導入が課題となっている。

これら直売野菜、観光用野菜、地域特産果樹の安定生産技術の導入を支援することにより、地域農業を活性化することが求められている。

2. 活動内容（詳細）

(1) 野菜の新作型及び新品目の導入支援

- ・新作型としてハウススイートコーン、春どりダイコン、抑制エダマメ、ハウスコカブ、半促成ナス、夏まきホウレンソウ、夏まきリーフレタス及び加温トマト、新品目として促成イチゴ及びアーサイについて、講習会や巡回指導を実施した。
- ・各作型・品目について、資材による低温対策、高温対策等について技術指導を実施した。

(2) スマート農業技術を活用したイチゴの生産拡大支援

- ・施設内環境データの可視化に取り組む生産者を選定し、環境モニタリングシステムにより環境データを収集、あわせて生育データを収集した。
- ・検討会において、いちご部会員に情報を共有し、ハウス内の温度ムラなど、栽培管理の課題を明確化した。

(3) ブドウ、ブルーベリー栽培における省力化技術の導入支援

- ・摘蕾櫛、花房形成器及び反射マルチについて、巡回や講習会で、調査研究の成績等を用いて紹介・説明した。
- ・電動機械を使用した剪定技術について、巡回指導で啓発、講習会により実演した。

3. 具体的な成果（詳細）

(1) 野菜の新作型及び新品目の導入支援

- ・生産者による取り組みはみられたが、他作目との作業競合や夏の異常高温などが課題となり、定着しなかった作型・品目があった。最終的に、JA 大型直売所「あぐりんずつくい」における販売品目として、加温トマト、アーサイの2作型・品目が定着した。
- ・令和6年度の「あぐりんずつくい」の地場農産物販売額は8,827万円だった。このうち、支援対象品目の売上は206万円だった。



アーサイ

(上) 早太り湖南児菜

(下) 四川児菜

(2) スマート農業技術を活用したイチゴの生産拡大支援

- ・環境データの可視化により、1経営体が循環扇を追加で設置した結果、ハウス内の温度ムラを軽減することができた。
- ・2経営体が新たに環境データの可視化に取り組み、今後、環境の改善に取り組む予定である。



(3) ブドウ、ブルーベリー栽培における省力化技術の導入支援

- ・ブドウ部会では、講習会等を実施した結果、摘蕾櫛を1経営体、花房整形器を1経営体、反射マルチを2経営体が新たに導入した。
- ・ブルーベリー部会では、普及指導員の体験に基づき啓発した結果、電動バサミやノコギリなどの機械剪定技術を3経営体が新たに導入した。



4. 農家等からの評価・コメント

イチゴの生産者からは、「環境データと生育データの見える化につながった。」、「環境の均一化により、生育が揃うことで収量の予測が立てられ、管理がしやすくなる」といった声があった。

5. 普及指導員のコメント

新作型・新品目の導入にあたり、JA と連携し、可能性のある生産者を選定して働きかけることができた。また、専門知識を生かし、環境データと生育データの関係を考え、栽培の改善点を確認できた。

(神奈川県農業技術センター北相地区事務所 住本技師)

6. 現状・今後の展開等

野菜の新作型及び新品目の導入支援については、対象品目の生産安定について技術支援していく。

スマート農業技術を活用したイチゴの生産拡大支援については、改善に取り組む経営体を増やし、すでに改善に取り組んだ経営体には、巡回指導を通じて新たな改善点の検討と栽培技術の向上を支援していく。

ブドウ、ブルーベリー栽培における省力化技術の導入支援については、電動バサミやノコギリは作業性を高め労力軽減できるので、引き続き導入を支援する。